

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

幼児・成人好酸球性消化管疾患診療ガイドライン 2020 年

生労働省好酸球性消化管疾患研究班、日本小児アレルギー学会、日本小児栄養消化器肝臓学会
(統括委員長: 野村伊知郎 国立成育医療研究センター好酸球性消化管疾患教室/アレルギーセンター)

発行年月日 2020 年 9 月 14 日

Minds 掲載 有

Strength of Evidence

A (強): 質の高いエビデンス

RCT のみでまとめられた場合や SR、メタアナリシスなど

B (中): 中等度の質のエビデンス

観察研究であっても、救命や障害を防ぐなど、介入の効果が大きい場合等

C (弱): 質の低いエビデンス

観察研究 (コホート研究、症例対照研究のほとんどがこれにあたる)

D (とても弱い): 非常に質の低いエビデンス

観察研究 (症例報告、症例集積研究)

Strength of Recommendation

1 強い推奨: “実施すること”を推奨する、“実施しないこと”を推奨する

2 弱い推奨: “実施すること”を提案する、“実施しないこと”を提案する

■1 漢方薬

疾患:

EGE (好酸球性胃腸炎)

有効性に関する記載ないしその要約:

『イ) EGE (好酸球性胃腸炎) の治療』の『V その他の治療法』において、下記の記載がある。

『その他の治療法として免疫抑制薬 (アザチオプリン、シクロスポリン、タクロリムス)、生物学的製剤 (抗 IL-5、抗 IgE)、制酸薬 (ヒスタミン H2 受容体拮抗薬、PPI)、漢方薬、手術療法などがある。』

■2 漢方薬

疾患:

EGE (好酸球性胃腸炎)

CPG 中の Strength of Evidence:

D (とても弱い): 非常に質の低いエビデンス
観察研究 (症例報告、症例集積研究)

CPG 中の Strength of Recommendation:

判定できない (合意率: 100%)

引用など:

Bo Y. Observation of curative effect on eosinophilic gastroenteritis by treatment with method of reinforcement of essence of the kidney. *J Tradit Chin Med* 1996; 16: 186-9.

有効性に関する記載ないしその要約:

『イ) EGE (好酸球性胃腸炎) の治療』の『V その他の治療法』において、下記の記載がある。

『CQ5: その他の治療法は有効か?』

『ステートメント (推奨案): CQ1-4 で紹介した治療以外の治療について

・その他の治療法* についても、推奨を判断するだけの十分なエビデンスや使用経験があるものではなく、有効性は不明である。

推奨の強さ (合意率): 判定できない (100%)

エビデンスの強さ: D

解説: その他の治療法* は文献が検索されていたもの (ヘリコバクター・ピロリ除菌治療、抗 TNF α 療法、漢方薬投与、インターフェロン α 、アザチオプリン、シクロスポリン、タクロリムス) について記載した。

3) その他には SR (システマティックレビュー) での網羅的検索においてヘリコバクター・ピロリ除菌治療、抗 TNF α 療法、漢方薬投与、インターフェロン α が奏功したとの報告が存在した。』

<以上 1~2 の記載として>

備考:

『診療アルゴリズム』の好酸球性胃腸炎 (EGE) の頁に、『CQ5 その他の薬物療法』が記載されている。